

【編集方針】

このレポートは、持続可能な社会の実現に向けたパイオラックスグループのCSR活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために発行しました。当グループではこのレポートを通じて、より多くのステークホルダーの皆様とコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。

■報告対象組織

株式会社パイオラックス及びパイオラックスグループについての報告(パイオラックスグループ全体を対象にしている場合は、個々に範囲を記載)

■対象期間

2020年4月1日～2021年3月31日

※対象期間外の活動には年月を記載

※一部、対象期間外の写真が含まれる箇所がございます。

■参考にしたガイドライン

GRIスタンダードの中核(Core)オプションに準拠して作成しています。

■発行時期

日本語版 2021年10月

※前回発行 2020年11月

■本レポートに関する窓口

株式会社パイオラックス

経営管理部

〒240-0023

横浜市保土ヶ谷区岩井町51番地

<https://www.piolax.co.jp/>

【目次】

表紙	・・・1
目次・編集方針	・・・2
トップメッセージ	・・・3
社是・企業理念	・・・5
会社概要	
あゆみ・企業情報・拠点・事業内容	・・・6
PIOLAXの戦略	
マテリアリティ/ESGビジョンと目標	・・・12
ステークホルダーエンゲージメント	・・・14
その他の取り組み	・・・15
ガバナンス報告	
コーポレートガバナンス	・・・17
リスクマネジメント	・・・20
コンプライアンス	・・・21
パフォーマンス報告	
環境報告	・・・22
品質報告	・・・34
バリューチェーンエンゲージメント	・・・36
安全衛生	・・・41
社会	
人権	・・・43
人財	・・・44
調達	・・・48
社会貢献	・・・49
補足資料	・・・50
GRIスタンダード対照表	・・・51

免責事項

本レポートは、当グループの計画・見通し・戦略・業績等の将来予測の記述を含んでいます。これらは、現時点で入手可能な情報から判断した事項に基づくものです。

読者の皆様には以上をご了解いただきますようお願い申し上げます。

トップメッセージ

弾性を創造するパイオニアとして、広く産業や社会に貢献する

パイオラックスは1933(昭和8)年に「加藤発條製作所」として創業し、今年で創業88周年を迎えます。当社は自動車産業、電気通信産業向けの精密金属ばねの生産からスタートし、後に合成樹脂を素材とするファスナー類の開発、製造へと事業を拡大してきました。当社の強みは、金属と樹脂の両方を扱ったばね製品の開発と製造ができることにあり、この強みを生かして新事業の開拓へつなげてまいりました。企業理念に「弾性を創造するパイオニア」を掲げ、現在は自動車産業を中心に、医療機器事業、生活関連などの分野で、「弾性」の可能性の追求に積極的に取り組んでいます。今後も「弾性」を科学することにより、画期的な製品を生み出し、広く社会、産業に貢献していきたいと考えています。



株式会社パイオラックス
代表取締役社長 島津 幸彦

<新型コロナウイルス感染拡大への対応>

2020年は新型コロナウイルス感染拡大というパンデミックに見舞われ、世界中で未曾有の危機に直面した1年でした。パイオラックスでは「新型コロナウイルス対策委員会」を立ち上げ、感染拡大への対策を取ってまいりました。従業員の健康と安全を最優先に感染拡大の防止に努め、国内外出張の自粛、在宅勤務の導入、オンライン会議の整備などに取り組ましました。先行き不透明な中、舵取りの難しい1年でしたが、このような環境の変化に対して在宅勤務制度の構築といった働き方改革を推進し、業務効率化や固定費削減を強化するなど、構造改革にも取り組ましました。

<ESG経営への取り組み>

世界では気候変動、環境汚染、人権問題など多くの問題が深刻化し、企業も積極的にこれらの社会課題に取り組むことが求められています。当社では持続可能な社会の実現に向けて、ESG経営への取り組みを推進してまいりました。2020年度は当社のESG経営推進に向けた活動の土台作りを進めました。取り組みの一例として、「パイオラックスグループ 人権と労働に関する基本方針」を制定し、当社に関わるすべての人々の人権を尊重していくことを明示しました。また、社内のダイバーシティへの取り組みを進め、女性活躍推進法に基づく優良企業認定「えるぼし」の最高位を取得しました。そして、ESG経営を加速させるため、2030年度に向けた当社のESGビジョン「PIOLAX ESG Vision 2030」と、このビジョンの実現に向けた2021年度の取り組み、並びにKPIを公表しています(ESG目標P.13参照)。目標を内外に示すことで、従業員を含めたステークホルダーの皆様と共に目標達成を目指してまいります。

当社は ESG の活動を通じて、SDGs(国連の持続可能な開発目標)の目標達成に挑戦しています。当社の社は「至誠・協力・奉仕」に込められた、誠心誠意を以て尽くし、お客様・社会のために協力を惜しまないという経営精神は、持続可能な社会を目指す SDGs と親和性が高いと感じています。当社の取り組みが持続可能な社会の達成に貢献できるよう、今後も活動を推進していきます。

<中期経営計画>

当社は今年、2021～2023年度中期経営計画を発表しました。「弾性を創造するパイオニアとして、広く産業や社会に貢献する」をビジョンに掲げ、5つの基本方針と5つの経営戦略を策定しています。当社の主要なお取引先となる自動車業界では今、100年に1度の大変革期を迎え、脱炭素に向けたEV化へのシフトが急速に進んでいます。当社では、EV化が進むことで既存製品の受注減や消滅のリスクがあると捉えており、中期経営計画の中で対策としてEV車向け新製品の開発と拡販、新規事業の発掘などの方策を掲げています。また、ESG経営の推進ではカーボンニュートラルに向けた取り組みやダイバーシティ推進などの方策も入れています。当社が企業として成長していくことは持続可能な社会の発展への貢献にもつながると考えています。

<パイオラックス 中期経営計画 2021～2023年度>

Vision 弾性を創造するパイオニアとして、
広く産業や社会に貢献する

基本方針

1. 既存事業の変革
2. 新規/次世代事業への挑戦
3. 経営基盤強化
4. 将来に向けた積極投資
5. ESG経営の推進

経営戦略

1. 商品・顧客戦略
2. 事業戦略
3. 地域別戦略
4. 成長投資戦略
5. 経営資本戦略

企業としてどのような形で社会へ貢献していけるのか真摯に考え、全社員一丸となって新しい挑戦を続けていく所存でございます。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

以上

社 是

「至誠 協力 奉仕」

企 業 理 念

私たちは、「弾性」というコアテクノロジーを生かした
開発型企业として、常に時代の変化を見据え
新たな挑戦を続けてまいります。

企業理念（モットー）

**弾性を創造す
るパイオニア**

理想像 （イメージ）

- 開発型企业
- 最大より最良
- 変化に強い会社
- 活発な企業風土
- 顧客ニーズ優先

開発 5 原則（テリトリー）

- ①弾性がコア・テクノロジー
- ②小さな池の大きな魚、小さな池を数多く
- ③単品からシステム部品まで
- ④先端産業、成長産業と近隣付き合い
- ⑤パイオニアとは二番手まで

【あゆみ】

パイオラックスは、**金属** と **樹脂** を組み合わせることで、**新事業参入**への可能性を拡げてきました。

1933年 東京市本所菊川において「加藤発條製作所」を創業

1936年 本社を横浜市保土ヶ谷区岩井町に移転

1937年 日本フォードと取引開始

1939年 「加藤発條株式会社」として設立

1957年 横浜市保土ヶ谷区狩場町に横浜工場を建設

1969年 樹脂ファスナーの製造を開始

1970年 真岡工場(栃木県)を新設

1988年 アメリカでの現地生産を開始

1995年 株式会社パイオラックスに社名変更

1995-1996年 イギリス、韓国に拠点を設立

1998年 東証二部に上場
富士工場(静岡県)を新設

1999年 医療機器分野を分社化

2000年 タイに拠点を設立

2003年 中国(東莞)に拠点を設立

2004年 東証一部に指定

2009-2012年 インド、メキシコ、インドネシア、
中国(武漢)に拠点を設立

2017年 レイモン社(フランス)と協力契約を締結

2019年 中国(上海)に拠点を設立

2021年 中国(上海)拠点を中国統括会社化
中国(東莞・武漢)拠点を上海の子会社化



設立当初の様子
(横浜市保土ヶ谷区)

1933年
金属ばね製造でスタート

1972年
樹脂ファスナー本格参入

1990年代
燃料系事業拡大

1995年
医療機器事業参入

2000年代
開閉機構部品拡大

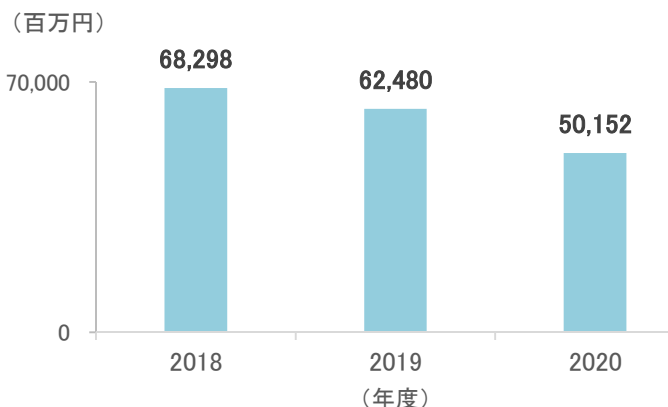
2010年代
EV事業参入

2021年10月に創業88周年を迎えます

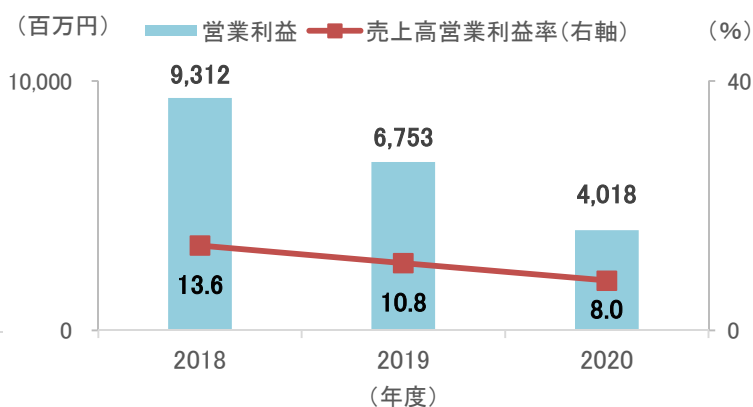
【企業情報】(2021年3月31日現在)

会社名	株式会社パイオラックス
設立	1939(昭和14)年9月
事業内容	コイルばね、薄板ばね、ワイヤフォーム、金属及び合成樹脂ファスナー、 ユニット機構部品の製造および販売
資本金	29億6,097万円
売上高	50,152百万円(連結)(2021年3月期)
従業員数	2,952名(連結)
本社所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町51番地
主要取引先	日産自動車株式会社、本田技研工業株式会社、マツダ株式会社、 トヨタ自動車株式会社、株式会社SUBARU、三菱自動車工業株式会社、 スズキ株式会社、ダイハツ工業株式会社、いすゞ自動車株式会社、 ジヤトコ株式会社、矢崎部品株式会社、日産車体株式会社、 日立Astemo株式会社、愛知機械工業株式会社、 三菱ふそうバス製造株式会社、UDトラック株式会社、TOTO株式会社、 ゼネラルモーターズ、フォード・モーター、現代自動車株式会社
加入団体	一般社団法人日本自動車部品工業会、一般社団法人日本ばね工業会
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部(証券コード:5988)
発行済株式数	39,254,100株
株主数	6,012名

売上高(連結)



営業利益・売上高営業利益率(連結)



【パイオラックスグループの拠点】

パイオラックスグループの製品・技術・生産は、グローバルな市場を念頭に置いてアジア、北米、欧州へ展開されています。世界に広がるネットワークは、日系自動車メーカーの海外現地生産をサポートするだけでなく、多くの海外自動車メーカーのニーズにも応えています。

1. 海外拠点

- ① PIOLAX CORPORATION 営業・設計事務所(アメリカ ミシガン州)
- ② 同上 本社・工場(アメリカ ジョージア州)
- ③ PIOLAX MEXICANA S.A. de C.V.(メキシコ ヌエボレオン州)
- ④ PIOLAX CO., LTD.(韓国 仁川広域市)
- ⑤ DONGGUAN PIOLAX CO., LTD.(中国 東莞市)
- ⑥ WUHAN PIOLAX CO., LTD.(中国 武漢市)
- ⑦ PIOLAX (CHINA) CO., LTD. 本社・上海支店(中国 上海市)
- ⑧ 同上 天津営業所(中国 天津市)
- ⑨ 同上 広州支店(中国 広州市)
- ⑩ PIOLAX (THAILAND) LTD.(タイ ラヨン県)
- ⑪ PT.PIOLAX INDONESIA (インドネシア 西ジャワ州)
- ⑫ PIOLAX LTD.(イギリス ランカシャー州)
- ⑬ PIOLAX INDIA PRIVATE LTD.(インド アンドラ プラデシュ州)
- ⑭ 同上 北インド営業所 (インド ハリヤーナー州)

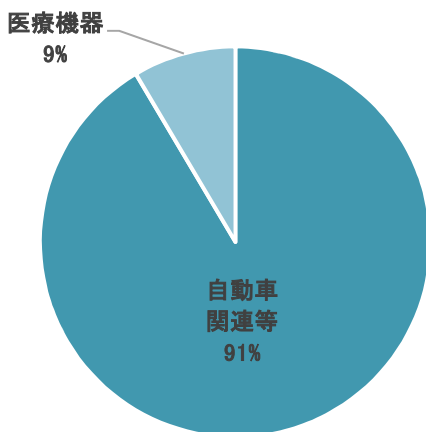
2. 国内拠点

- ・本社(神奈川県横浜市)
- ・横浜テクニカルセンター/横浜支店(同上)
- ・真岡工場/真岡支店(栃木県)
- ・富士工場/富士支店(静岡県)
- ・名古屋支店(愛知県)
- ・西日本支店(広島県)
- ・湘南センター(神奈川県)
- ・西日本センター(福岡県)

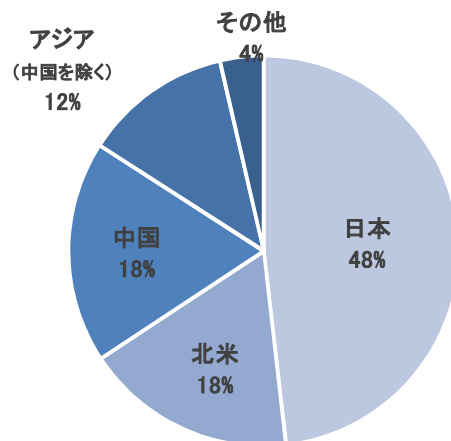
3. 国内子会社

- ・株式会社パイオラックスエイチエフエス(群馬県)
- ・株式会社ピーエムティー(栃木県)
- ・株式会社ピーエヌエス(栃木県)
- ・株式会社パイオラックス九州(福岡県)
- ・株式会社パイオラックスメディカルデバイス(神奈川県横浜市)
- ・株式会社ケーエッチケー販売(同上)
- ・株式会社パイオラックスビジネスサービス(同上)

事業別売上高比率(2020年度)



地域別売上高比率(2020年度)



【事業内容の説明】

1. 自動車関連事業

自動車関連事業は、パイオラックス全体の売上高の約9割を占める主力分野です。

当社の強みは、弾性を持つ素材の中でも、「金属」と「樹脂」の両方の製品を開発・製造できることにあります。この強みを生かすことで、多様な顧客ニーズに合った製品を提供することができ、当社の今日までの発展につながっています。

1) SBU 制

当社が生産している自動車関連部品には、ファスナー部品、開閉機構部品、燃料系部品、駆動系部品等があり、これらの製品分野別にSBU(戦略的ビジネスユニット)制を導入しています。

SBU制により、当社製品が置かれている市場の変化に迅速に対応し、事業分野ごとに開発・製造・販売・品質保証に至るまで、一体的な運営を推進しています。

パイオラックス SBU 体制



各商品SBUにはマーケティング・開発・製造・品質保証の担当部署が設置され、独自の戦略を立案・実行し、市場やお客様の要望に対して、機動的に対応できる体制となっています。

2) 自動車部品 使用配置図

駆動系部品



トランスミッション等の駆動機構に用いられるリテーナーアッセンブリーや部品保持力を高めるためのスナップリング等

開閉機構部品



グローブボックスのオープン機構に用いられるエアダンパーやラッチが主力商品

EV 関連部品

バッテリー
関連



バッテリー及びモーター関連の構成部品

カバー
ターミナル



クランプ部品



パイプとゴムホースの接合部で、漏れ防止や抜け止めの役目を果たすホースクランプ等

ハーネス部品



車体の中を血管のように縦横に走る電線(ハーネス)類を束ねたり、車体パネルに固定するためのバンドクリップやテープ巻きクリップ等

ファスナー部品

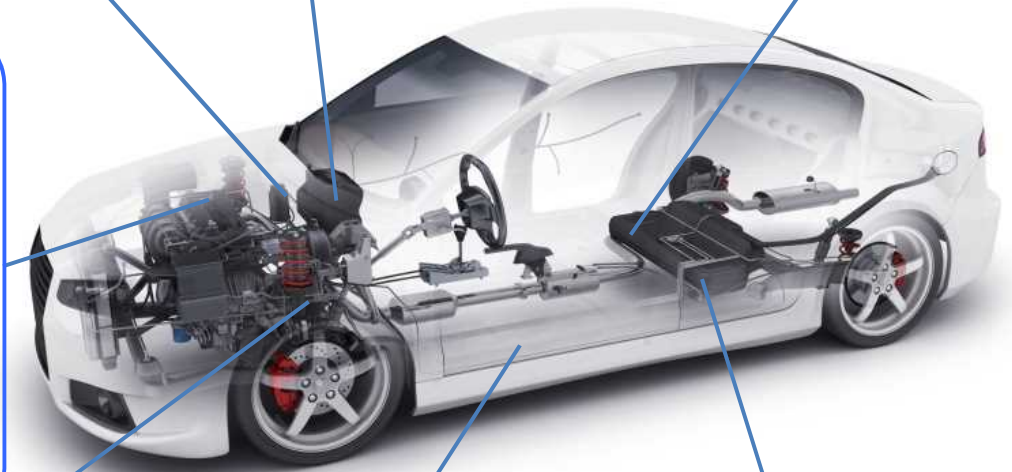


車の内外装部品や配管類を車体へ固定するトリムクリップ等の様々な樹脂ファスナー、金属ファスナー等

燃料系部品



燃料を安全で確実に給油・貯蔵・供給するために用いられる各種バルブ類を中心にコネクター、フィルター等



2. 医療機器事業

子会社のパイオラックスメディカルデバイスは、当社が自動車部品の開発・製造で培ってきた弾性技術をベースに、現在は独自技術を付加した医療機器事業を展開しています。

従来はメスを用いた外科的手術が中心でしたが、患者様の身体的負担や出血、長期入院等、様々な課題がありました。同社が目指す「インターベンション治療」は、患者様の体に大きな傷をつけることなく、皮膚に開けた穴や小切開により、血管や体内に必要とするデバイスを送り込んだり、内視鏡を介して必要となる処置具を送り込み行われる治療のことです。外科的治療に比べ身体的負担が軽い低侵襲治療を提供し、早期に社会復帰が可能な「人に優しい医療」です。

パイオラックスメディカルデバイスの目指す利用分野

※QOL: Quality of Life

